



かがみ



家庭・学校・地域の協力で規範意識向上を

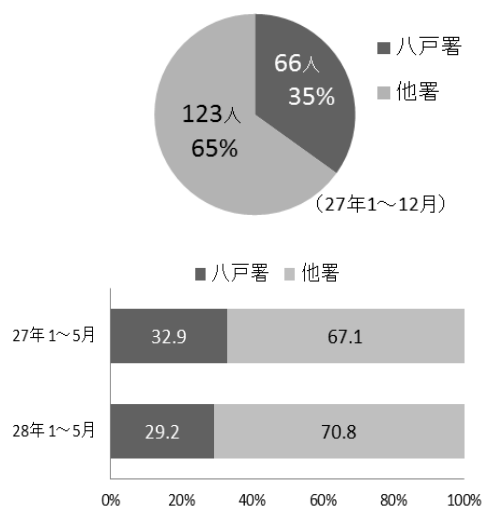
規範意識とは、集団におけるルールや約束などの規範に基づいて、主体的に判断し行動しようとする意識です。社会生活を営んでいく上で必要不可欠なものです。しかし、現在、子どもたちの規範意識の低下が指摘されています。中でも、非行の入り口と言われている「万引き」の発生が止まらないことは看過できない問題です。

右のグラフは、万引きにより補導された少年数(県全体と八戸警察署管内との比較)を表したものです。27年中の八戸警察署管内の万引きの少年数は、県全体の35%で「県内ワースト1」となっております。本年1～5月期間の発生件数の割合は昨年に比べ減少しておりますが、県全体の約3割を占める憂慮すべき状況にあります。

各学校では、万引きは犯罪であることを繰り返し指導する他に、社会のルールや公共のマナーを理解させたり、地域での奉仕体験などを通して人と人とのかかわりの大切さを感じさせたりして規範意識の醸成を図っています。

この規範意識を育むためには、家庭でのしつけが土台となります。親の姿を真似したり、親からしつけられたりしながら、子どもは守るべき約束事があることを学んでいきます。望ましい規範意識は、家庭教育の中で責任をもって培っていくべきものです。学校と家庭、さらには地域が連携して指導することで規範意識を高め、万引きをはじめとする少年非行の防止に取り組んでいきましょう。

万引き少年数 県全体と八戸署との比較



しつけは未来への大切な贈り物

しつけるために、「だめなことはだめ」と叱ってあげることは大切ですが、「言うことを聞かせなくては」「なぜ言うことを聞いてくれない」という思いが強すぎる結果、感情的になり、厳しく怒ったり叩いたりして、心や身体を傷つけてしまう場合があります。イライラが子どもへの愛情を忘れさせているのです。

大切なことは子どものためを思って叱ることです。しつけは、子どもが自分の行動に責任をもち、自己管理のできる大人に成長するための大切な贈り物です。大人は愛情をもって子どもの成長を願い、価値観を伝えなくてはなりません。この言動で子どもはどんな気持ちになるのか子どもの立場に立って考えることが、愛情あるしつけにつながります。



名前は祈り

八戸市教育委員会 教育長 伊藤博章

【随想】

- ◇ 娘が嫁ぐ日に、こんな詩が贈れたらいいなと思っていた。しかし、いざ嫁ぐ日がきてみると何もできなかった。ささやかな宴だったが白無垢姿が春の陽光に照らされ、ただ祈りたい気持ちになったことを覚えている。贈るはずだった一編の詩だけが手元に残った。

「名前は祈り」

毛里 武

名前はその人のためだけに

用意された美しい祈り

若き日の父母が

子に込めた願い

幼きころ 毎日、毎日

数え切れないほどの

美しい祈りを授かった

祈りは身体の一部に変わり

その人となった

だから 心を込めて呼びかけたい

美しい祈りを



- ◇ 詩選集『親から子へ伝えたい 17 の詩』に掲載されていたこの詩に心打たれた。生きていくかぎり呼ばれ続ける名前。我が子誕生の瞬間の祈りにも似た感動を忘れない。そして命名には家庭のドラマが秘められている。誰にも気兼ねなく、名前を呼べるのは親として家族としての特権でもある。
- ◇ 職業柄、児童生徒の名前を呼ぶことが多かった。「名前」だけは呼び間違えないようにと、随分気遣いもした。このごろの名前には個性的なものが多く、容易に読めないものも少なくない。しかし、どの名前にも、親の深い願いが込められているような気がして身の引き締まる思いがする。
- ◇ 親が子どもと向き合うとき、最も大切なことは、「認められている」という安心感を子どもに与えること。「受け入れられている、愛されている」と感じることで、子どもの自己肯定感が高くなるという。褒めるべきは褒め、叱るべきは叱るといった当たり前の子育てに腰が引け、自信がもてなくなっている大人が増えているような気がする。
- ◇ 連日のようにテレビや新聞等で報じられる悲惨な事件の数々…尊い命が毎日のように失われている。文部科学省の「家庭の教育力の向上」の書き出しの一文、「家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、家庭教育は、すべての教育の出発点です」の真の意味を改めて強く感じている。自分史の原点であるかもしれない『名前』に込められた親の思い、その愛と祈りを親子で共有できたらと願っている。